

2018/1/21

うときゅういっきの漢字夜話（ことば夜話）

（捨てる神あれば、拾う神あり）」 「資材創無」筆者造語 完全改題



カレーショップの第三支店開店のためのテナント候補である、居酒屋の居抜き物件のお店に入ると、神棚がありました。

今どき珍しいなと思い、感じたままを素直に

「神棚があるのはいいですね」

とお店の大将に言うと、その大将は

「トイレの外にある洗面台の後ろ壁から一本、線を引いて突き当たったこの壁までが、神さまの通り道だと言われたんですわ。

それで、そういうものがこの店の中にあるのか！と驚いて、この壁の上方に神棚をお祀り（おまつり）したんです。

するとその話を聞いたわしのカミさんが、趣味でやっている生花をこのトイレの洗面台の脇にかざりだしたんです。花がしおれそうになると毎回変えて、絶やさないとすわ。

どうせそこまでするんだったら、お客さんの見えるところに飾れよ、そんな奥に飾ったってトイレの洗面台を隠す長暖簾で、お客さんから見えないんだから、あんまり意味ないぞって。

でも、カミさんは、神さまの通り道の始まりの場所だからって言って、ずっとあそこに」

思いもよらぬ通り一遍ではない話が出てきたことに、少し驚いている自分を横において、大将は更に、神棚の下から二、三步踏み出して、奥を遮っている長暖簾を持ち上げ、突き当り一番奥の洗面台脇にある、大花瓶に入った、大層な数の百合の生け花を見してくれました。

「大将、折角のこの神棚はどうされるんですか？」

と訊くと

「どんどん焼きにするしかないわな。神社に奉納して」

とのお答えでした。

「それは、なんだか、可哀想ですねえ。奥様も寂しがるでしょうし」

その日、その話は、そこで終わり、あとは厨房や什器等、商売の話をしました。

しかし、お店を後にしたのちも、その神棚が気になっていました。

気になると言えば、実は自分は、ネパール人のビジネスパートナーであるオーナーシェフか

ら、宿題を預かっていました。

「お客様もカレー食ばかりでは、飽きるだろうから、顧客再来店率を上げるために、第三支店では、スーパーで買えるような安い食材で、且つネパール人にも手間いらずで、短時間に料理可能な「早い、安い、旨い」の300円均一の日本料理、というかサイドメニューを出したい。ついては、それを日本人の君が、考案してくれないか」

というものでした。

しかし、それは、いくら料理好きの自分でも難しい。

それで長い間、あれやこれや悩んでいるのですが、神棚を見た瞬間に、何かがひらめいたような。

「捨てる神さまを私がお拾い申し上げます。先だってお伺いした折に訊いたところでは、このお店は15年もの長きにわたって、されていたとか。

ならばそれをみすみす捨て去るのも、もったいない話。ひとつ、神さまも大将の技も、私にお譲りいただけませんか？

ネパールインドのヒンドゥーの神さまと一緒に飾らさせていただきます。

そして、もしよろしければ、その秘伝の裏メニューの作り方も私共にお教え願えませんでしょうか？」

と宿題の話を示したうえで、大将に持ち掛けてみようか？

ひょっとしたら大将が、

「15年間、続けたお店やそのまかない技術がこのまま消えるのもさみしい話ですわな。

もし、それが残るのであれば、神さまとお店、それにわしにとってもいいことかもしれない」と、その秘伝の裏メニューの作り方を教えてくださるかもしれない。あわよくば、大将のおかみさんも、今までの続きでお花を生けに来てくれるかもしれない。

「捨てる神あれば、拾う神あり」

そういうことで、話がまとまればいいなあと思っております。

なにしろ、お金がありませんから「これは、というもの」をこまめに拾うしかありません。

もちろん、そのあとの結果がどうなるのかは、今は知る由もありませんが、広い世の中、些細なことがきっかけで、大輪の花咲くことがあるや、もしれません。

というより、今はこの手しか持ち合わせていない、からそういつているだけなのかも。

ですが、ただ一つ、これだけはということがあります。それは

意を尽くせば答えは必ず出る。

それだけは、間違いのないことだと思っております。